本と地域の情報誌

県北 どらくろあ

第121号　2026年4月1日（毎月1日発行）

木次（きすき）線ストロール⑱ 南宍道（しんじ）駅

「宍道氏の金山（かなやま）要害山城と札打ちの六地蔵菩薩像」

2月6日金曜日、絶景の旅⑨で、角島大橋を訪ねた翌日である。出雲市内で一泊、午前9時前に車で出発。曇天、雨が少し心配だ。

時刻表を確認しないで出て来てしまったので、加茂中駅に到着したときは、10時33分の宍道行きが出た後だった。構内放送で、出雲横田駅―備後落合駅間が雪のために始発から運行中止になっているという。春はまだ遠い。

加茂中駅は簡易委託駅、今日は平日なので係員が窓口業務を担っている。南宍道駅までの切符を購入、190円、大きな切符に恐縮する。

本を読んで時間を過ごし、12時12分の宍道行きに乗車。乗客は15人ぐらい、高校生が多い。学校が休みなのだろう。車窓は田園地帯から山間の急坂になって、列車が喘ぐような軋み音を立てながら登って行く。生い茂った灌木の緑のトンネルの先に、南宍道駅がある。運転手に切符を手渡して、自分で扉の開閉ボタンを押して降車した。小雨が降っている。

駅舎はなく、波型スレート鋼板で四方を囲った簡易な待合室があるだけだ。開業は昭和37年（1962年）、宍道駅―加茂中駅間に新設された。昭和38年開業の南大東駅と経緯は同じだろうか。南宍道駅は山間部に立地するので、待望の想いも強かったのではないかと推察する。

駅舎はなく、ホームに簡易な待合室があるだけ

駅名を刻んだ大石。左は開設40周年の記念碑（平成14年）

無人駅の待合室のベンチに腰かけて、持参のロールパンで昼食。目の前が山裾で眺望は良くないが、贅沢な気分。自分だけの時間である。待合室の後ろの壁に、金属製のボックスが設置されている。黒い扉に黄色のライン、白いペンキで「電話」。緊急用なのだろうが、誘惑に負けて扉の中を確認、家庭用のプッシュホン式の電話が入っていた。昭和の駅で平成の電話を発見（苦笑）。後日、以前に撮った写真を確認すると、南大東駅のホームの待合室にも“電話ボックス”は設置されていた。

雨足が弱くなったので、腰を上げた。ホームを宍道方面に進むとそのまま線路沿いの道になって、「金山下公民館」に到達する。なかなか立派な建物で、公民館のトイレや駐車場が駅の利用者にも使えるようだ。

ホームの少し先にある小道を降りて行くと市道に出る。畑で農作業をしていた男性に、金山要害山城への登山道の入口の場所を尋ねた。ここに来た目的を告げてしばし談笑。「熊に気をつけてくださいね」「まだ冬眠しているんじゃないですか?」「そうだといいんだけど……」。急に不安になった。腰痛もある。行けるところまで行こうと覚悟して歩き出した。雨が止んで、両手が使えるのがありがたい。

発行：どら書房

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会